

教科名	国語	科目名	言語文化	学年	1年	単位数	2
教科書	高等学校言語文化 (数研出版)		副教材	「高等学校言語文化準拠ワーク」 「これでわかる明快古典文法」「体系漢文」 「入試対策ベストセクション古文単語325」 「国語辞典」「古語辞典」「漢和辞典」			

1 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。

2 学習について

① 予習・復習の方法

予習：本文を読み、語句の意味調べを行う。古文漢文は、自分の力で現代語訳して授業に臨む。

復習：授業を通して、理解できたこと、分からなかったところを確認する。問題を解いて知識の定着を図る。

② 授業における学習方法

自ら思考し、他者と交流した後、もう一度自分でまとめる。ノートは復習しやすい取り方を念頭に置く。

③ 家庭学習のポイント等

【Aクラス】スタディサプリを積極的に活用する。教科書に掲載された文章以外の作品も読む。模試の対策・復習。

【Bクラス】宿題は、出された当日に必ず自分の力でやる。古文単語テストは合格点をとれるように勉強する。教科書準拠ワークに取り組み、内容を理解する。

3 学習計画

考査		単元名(学習項目)	学習内容(ねらい)
前期	前期 中間	古文導入 古文『説話』『物語』 用言	・古文を読むために必要なきまりや古文特有の表現などについて理解する。 ・内容や構成、展開を適切に捉え、「読むこと」に応用する。 ・用言の種類、活用の理解をする。
	前期 期末	漢文入門 漢文『故事成語』 小説①	・漢文を読むために必要なきまりについて理解する。 ・故事成語の成り立ちについて理解し、「読むこと」に応用する。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容解釈し、「読むこと」に応用する。
後期	後期 中間	古文『随筆』① 助動詞 漢文『十八史略』 詩歌	・筆者のものの見方を考察し、「書くこと」に応用する。 ・助動詞の意味・活用・接続を理解する。 ・為政者として有るべき姿を理解し、「読むこと」に応用する。 ・表現の技法や特色、効果について理解し、「読むこと」に応用する。
	学年 末	古文『物語』 古文『随筆』② 小説②	・和歌の修辞法を理解し、和歌に込められた心情について考察し、「読むこと」に応用する。 ・作者のものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容解釈し、「読むこと」に応用する。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容解釈し、「読むこと」に応用する。

4 観点別評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につける。

5 評価方法

計70時間(50分授業)

上記の観点を踏まえ、定期考査・課題考査・授業内小テストの成績、単元ごとや宿題などの課題、学習態度等を以下の割合で総合的に評価する。

知識・技能…60% 思考・判断・表現…30% 主体的に学習に取り組む態度…10%

